

第 64 回 関東甲信越静里親協議会 静岡市大会要綱

1. 大会テーマ

「子どもたちの最善の利益を保障するために、子どもたちと里親家庭の支援を考える」
～自立に向けた継続的な支援と、繋がりを求めて～

子どもたちの最善の利益を述べるときに、まず我々は子どもたちが自立し社会の中で当たり前な生活を営めるよう養育することが求められます。

子どもたちが自らを肯定でき、実親も養育者も、そして社会も肯定的に受け入れることができ初めて自立へのステップを登れるのではないのでしょうか。

子どもたちと家庭の支援のあり方、そして子どもたちの繋がりと健やかな成長のために今取り組まなければならないことを共に考えましょう。

2. 主催 公益財団法人全国里親会、関東甲信越静里親協議会、静岡市里親会

3. 共催 静岡市、特定非営利活動法人静岡市里親家庭支援センター

4. 協賛 常葉大学短期大学部

5. 助成団体 テレビ朝日福祉文化事業団

6. 後援 静岡県、静岡市社会福祉協議会、静岡市民生委員児童委員協議会

7. 開催日 平成 30 年 7 月 8 日(日) 一日開催

8. 会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1
TEL 054-203-5710

9. 参加範囲 関東甲信越静地区の里親と子ども、各都県市主管職員・児童相談所・福祉事務所職員、民生委員・児童委員、児童福祉施設職員、里親制度研究者、学生及び教育機関他里親制度に関心のある一般市民

10. 参加想定数 350～400 人

11. 大会の流れ

9:15	10:00	10:45	12:15	13:15	15:45
受付	式典	基調講演	昼休み	分科会、(ワークショップ)	

12. 式 典

- (1) 開会宣言
- (2) 里親信条朗読
- (3) 主催者挨拶
- (4) 来賓祝辞・紹介
- (5) 表彰式
- (6) 次期開催地挨拶
- (7) 閉会宣言

13. 基 調 講 演 演 題 “ こどもが「ひとり」になれるとき ”

講師 評論家 芹沢 俊介 氏

14. 分 科 会

分科会	テーマ	講師
第一分科会	「乳幼児を迎え入れて」 ～愛着形成とそのため養育とは～	静岡県立こども病院 名誉院長 北條 博厚 氏
第二分科会	「ヴァインランドⅡとS-M社会生活能力検査を活用し 子どもたちが一人で生きていける力を学ぶ」	障がい児成長支援協会 理事長 山内 康彦 氏
第三分科会	「“おとな” になりたい、“将来のことを考えてみたい” と 思えるような自立支援」 ～小学校高学年からのキャリア・カウンセリング・プロ ジェクト（CCP）～	静岡大学准教授 井出 智博 氏
第四分科会	「親子の関係改善により、子どもが変わる、里親も変わ る！フォスタリングチェンジ・プログラム」 ～静岡市里親家庭支援センターの実践報告～	静岡福祉大学教授 相原 真人 氏
第五分科会	おしゃべりサロン i n 静岡 里親同士でなんでも話そう	

15. ワークショップ

- ① 静岡ユースと語る会
- ② 里親会の情報交換会
- ③ 展示コーナー 「写真とことばでつむぐ フォスター」 写真展

16. 託児プログラム

コース	年齢	受付	託児時間	内 容	想定人数
保育	乳幼児	9:15	9:30～12:15 13:00～16:00	施設内保育	25名
見学	小学生 以上	9:15	9:30～16:00	日本平動物園ーるくる (2班編成、午前午後入れ替え)	100名

第1分科会

テーマ

「乳幼児を迎え入れて」～愛着形成とそのための養育とは～

私たち里親は「乳幼児期の愛着形成が、子どもの人生の土台を作る」ということはよく知っています。しかし、子どもは千差万別です。「養育が予想をはるかに超えて大変」、「子どもとの関係づくりに苦勞する」、「自分の養育力に自信をなくす」といった経験や葛藤は誰にでもあるのではないのでしょうか。

子どもの健やかな成長発達を支えるためには、養育者の思いだけでなく、子どもの視点、思いを理解する必要があります。子どものこころの発達と環境との関わりを中心に、愛着を形成するためのヒントを学びます。

出演者

講師 : 静岡県立こども病院 名誉院長 北條博厚 氏
話題提供者 : 静岡市里親会
進行役 : 静岡市里親家庭支援センター

講師プロフィール

北條 博厚 氏

小児科医。医学博士。

専門は一般小児科学及び小児神経学（知的障害、行動障害、脳性麻痺、てんかんの診療、療育相談）

滋賀県立近江学園、京都大学医学部附属病院小児科を経て、静岡県立こども病院に1977年の開設とともに勤務。1994年に同病院3代院長に就任。2001年名誉院長となり、2014年まで診療を続けた。

現在、伊豆医療福祉センター嘱託医、静岡県立北特別支援学校校医、静岡英和学院大学非常勤講師。

著書に『6歳までの子育てに悩んだら読む本—しつけ 叱る・ほめる ケガ・病気 個性』

第2分科会

テーマ

『ヴァインランドⅡとS-M社会生活能力検査を活用し

子どもたちが一人で生きていける力を考える』

保護者の全てが願うことは、「子どもたちが一人で自立して生きていくために必要な力を身につけること」です。本分科会では、「その力が何なのか」が分かるとともに、実際に適応能力と社会性をテストし、判断できる講演です。また、静岡市児童相談所児童心理司から、静岡市で実践しているヴァインランドの報告をする予定です。テストの結果から、今後どのような療育が必要かを解説します。

出演者

講師：（一般社団法人）障がい児成長支援協会

理事長 山内 康彦 氏

（学校心理士・ガイダンスカウンセラー）

話題提供者：静岡市児童相談所

進行役：静岡市児童相談所

講師プロフィール

山内 康彦 氏

専門は特別支援と保健体育。岐阜県の教員（小1～中3の義務教育9学年を全て担任経験有）を平成2年から20年務めた後、教育委員会で教育課長補佐となり、就学指導委員会等を担当。その後、岐阜大学大学院（教育学研究科）で学び、小中高・特別支援学校の専門職修士となる。また学校心理士やガイダンスカウンセラーの資格も取得。私立小学校3年の勤務経験を経て、現在は（一般社団法人）障がい児成長支援協会の理事長を勤めながら、学会発表や各県での講演会活動を積極的に行っている。現場目線で、具体的な解決策を提案する講演会は各地で好評を得ている。日本教育保健学会理事。著書には「保健体育指導用教科書（学研）」等多数あり。

関ブロ静岡市大会 第三分科会

H30.2.6 現在

【 講師（井出先生）会場入り 】

- 到着時間 … 午前中のお話も伺いたいので、開会の時間には行く予定
- 交通手段 … たぶん、徒歩

【 使用する機材 】

- プロジェクター
- マイク4～5本（講師1、司会1、話題提供者1、会場1～2）
- パソコンは講師持参

第4分科会

テーマ

「親子の関係改善により子どもが変わる、里親も変わる！ーフォスタリングチェンジ・プログラム」～静岡市里親家庭支援センターの実践報告から～

静岡市においては、里親委託率の増加とともに、児童虐待や不適切な養育を受けた子どもが惹き起こす様々な問題行動への対応に苦慮し養育に行き詰る里親が増えており、今後、一層の里親支援が求められている状況となっています。

そのような中、昨年、英国発祥の「フォスタリングチェンジ・プログラム」が日本で初めて導入され、九州地区において子どもとのよりよい関係づくりや子どもの問題行動の改善に大きな成果がみられたことから、静岡市里親家庭支援センターにおいても平成29年度からモデル的に実施したので、その実践を報告します。

当セッションでは、講師から「フォスタリングチェンジ・プログラム」の概要を説明した後、ファシリテーターから当プログラムの実施報告を行い、併せてプログラム修了者の体験発表を行ったうえで、参加者からの質問や相談等に対応します。

出演者

- 講師：静岡福祉大学 教授 相原真人 氏
報告者：NPO法人静岡市里親家庭支援センターアドバイザー 佐野多恵子氏
プログラム修了者（依頼中）
進行役：静岡市里親家庭支援センター

講師プロフィール

相原 真人 氏

静岡福祉大学社会福祉学部教授

静岡市健康福祉審議会委員、同審議会児童処遇審査部会会長、焼津市要保護児童対策地域協議会代表者会議学識経験者委員、静岡市児童虐待事例検証委員会委員長

主な職歴：

- 1983年4月 埼玉県庁へ上級福祉職として入職し、その後、児童相談所、リハビリテーションセンター、県立病院等に勤務
- 2001年4月 東京国際福祉専門学校ソーシャルワーク総合科専任講師
- 2007年4月 大正大学非常勤講師
- 2008年4月 静岡福祉大学社会福祉学部准教授
- 2011年4月 静岡福祉大学社会福祉学部教授（現在に至る）

主な著書：

- 「家族援助の基礎と実際」（共著／文化書房博文社・2007年）
- 「社会福祉援助技術の基礎と実際」（共著／文化書房博文社・2008年）
- 「輝く子どもたちー児童福祉新論」（共著／八千代出版・2008年）
- 「ソーシャルワーカーの社会福祉原論Ⅱー現代社会と福祉ー」（共著／大正大学出版会・2009年）
- その他著書多数